

令和6年度 タイ・バンコク都研修 12月11日(水)～15日(日)

今年度は、1年生10名、2年生3名、引率は校長先生を含む2名でタイ・バンコク都研修に行ってきました。コロナ後2回目のタイ研修です。常夏のタイですが、乾期の12月が一番気候の良い季節です。冬の日本から行くとさすがに暑いけれど、今年の日本の夏より断然過ごしやすく、生徒も活発に研修に参加できました。

1日目は、6時間かけて飛行機で移動し、次の日の姉妹校訪問を心待ちにしながら、夕食にタイスキを食べました。日本の鍋ものに似ていて、アジアのスパイスやハーブの入ったエキゾチックな鍋です。

2日目は、この研修のメインイベント、姉妹校ウィチュティットスクール訪問です。スクールカラーが同じ紫色ということに親近感を覚えながら、タイの踊りと音楽の出迎えに生徒もびっくりしていました。タイの生徒たちとお互いに学校紹介をした後、こちらからは「折り紙」と「茶道」の紹介をしました。折り紙では、「手裏剣」と「鶴」をタイの生徒とペアになって一緒に折りました。茶道の紹介では、抹茶茶碗で茶筌を使ってお茶をたてるのを、食い入るように熱心に見てくれました。そのあとは、民族衣装を着せてもらってタイのダンスや、揚げ菓子づくり、そしてムエタイにも挑戦し、最後に学校で作ったタイ料理をいただいて、盛りだくさんの午前中でした。午後には、バンコクから約1時間のところにあるアユタヤへ行き、ヤクルト工場見学、象乗り、遺跡見学と、大変充実した1日でした。





3日目は、午前中にノンタブリ県にある「高齢者のためのデイケアセンター」視察、午後には「JICAタイ事務所」での講義を受けました。タイは、経済発展中ですが、少子高齢化問題も日本より深刻だそうで、高齢者の健康維持、病気の予防に力を入れているそうです。明るく親切なタイのおばあちゃん達と調理実習もし、生徒たちはお世話を焼かれています。夜は、「アジアンティーク・ナイトマーケット」でディナークルーズをし、チャオプラヤー川沿いのライトアップされた「暁の寺」やバンコク都の渋谷・サイアム地域のキラキラした高層商業施設などに圧倒されながら、夕食を楽しみました。



4日目は、午前中には Brother & Sister プログラムとして、1グループに1人の現地の大学生がつき、一緒にバンコクの市街をめぐりました。移動には、地下鉄に乗ったり、トゥクトゥクに挑戦したりと、タイ文化を満喫していました。午後は、王宮、エメラルド寺院、暁の寺、涅槃寺院を訪れ、タイ人のガイドさんに歴史の講義をしてもらいながら、悠久の歴史に思いを馳せました。

短い3泊5日の旅でしたが、文化の違いを発見し、現地の人たちと会話をすることができ、大変刺激的な研修だったのではないのでしょうか。この研修を行うにあたって、同窓会を始め、多くの方々からサポートをいただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。この研修が、生徒たちの将来設計に少しでも役立つことを期待しています。